

# 北マケドニア（2025 年度）

- [国・地域別情報トップページへ](#)
- [各国・地域情勢](#)
- [在マケドニア日本国大使館](#)

1. 2024 年度日本語教育機関調査結果
2. 日本語教育の実施状況
3. 教育制度と外国語教育
4. 学習環境
5. 教師
6. 教師会
7. 日本語教師派遣情報
8. シラバス・ガイドライン
9. 評価・試験
10. 日本語教育略史

## 1.2024 年度日本語教育機関調査結果

初等教育			中等教育			高等教育			学校教育以外			全体の合計		
機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数
0	0	0	0	0	0	1	1	6	1	1	5	2	2	11

（注）2024 年度日本語教育機関調査は、2024 年 9 月～12 月に国際交流基金（JF）が実施した調査です。また、調査対象となった機関の中から、回答のあった機関の結果を取りまとめたものです。そのため、当ページの文中の数値とは異なる場合があります。

[「海外日本語教育機関調査」のページへ](#)

## 2.日本語教育の実施状況

### 全体的状況

#### 沿革

旧ユーゴスラビア時代にはベオグラード大学が日本語教育の中心的な役割を果たしていた（ベオグラード大学における日本語講座開設は 1976 年）。1997 年から 2001 年まで、マケドニア・日本友好協力協会が一般向けの日本語講座を開講していた。2004 年に同講座は再開されたが、1 年後に終了。

2025 年現在、聖キリル・メトディオス大学で日本人講師による日本語の授業（初級、学習 1~2 年目）が週 2 回開講されている。また、今後、社会人及び高校生を対象とする日本語講座の開講が予定されている。

※北マケドニアは 1991 年に旧ユーゴスラビアより独立。

#### 背景

日本は、北マケドニアに対し、2025 年までに医療、教育や環境分野において 185 件以上の草の根・人間の安

全保障無償資金協力を実施している他、JICA による専門家派遣や各研修等の技術協力を実施している。北マケドニア国民の対日感情は良好であり、対日理解度は人によってさまざまであるが、日本への関心は一般的に高いと言える。

## 特徴

従来の柔道や剣道等の日本の伝統的な武道に加え、近年、アニメや漫画等の現代文化の普及を通じて若者層を中心に日本への関心が高まっている一方、日本語を教えている教育機関・語学学校の数は限られている。

## 最新動向

聖キリル・メトディオス大学言語学部が、社会人及び高校生をそれぞれ対象とする日本語講座の開講に向けて受講者を募集したところ、各講座 20 人の枠に対し、社会人は 3 倍、高校生は 5 倍の応募があった。

## 教育段階別の状況

### 初等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

### 中等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

### 高等教育

2013 年に、聖キリル・メトディオス大学言語学部で開講されている日本語の授業が、北マケドニア教育科学省の認可を受けたことにより、単位を取得できる科目となった。2025 年現在、同大学において、一学期あたり 4 単位を取得できる選択科目として、日本人講師による初級日本語（学習 1~2 年目）の授業が週 2 回（1.5 時間／回）開講されており、学生 10 名が履修している。

### 学校教育以外

個人で活動している日本語教師が数名いる。

## 3.教育制度と外国語教育

### 教育制度

#### 教育制度

基礎学校 9 年間の義務教育を経て、高等学校（4 年）または職業専門学校（3~4 年）に進学。大学は学部によって 3 年または 4 年で学位を取得できる。

#### 教育行政

教育・科学省が教育全般を所管している。

## 言語事情

公用語はマケドニア語。人口の20%以上をマケドニア系以外の民族（アルバニア系）が占める自治体では、マケドニア語に加え、その民族の言語も自治体の公用語となっている。

## 外国語教育

小学校1年から英語を第一外国語として学び、小学校5年生からドイツ語またはフランス語を第二外国語として学ぶ。高校から、第二外国語の選択肢にイタリア語が加わる。

## 外国語の中での日本語の人気

日本語学習の機会は限られているが、若者層を中心に潜在的日本語学習希望者は多いと見られる。

## 大学入試での日本語の扱い

扱いなし

## 4. 学習環境

### 教材

#### 初等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

#### 中等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

#### 高等教育

2025年現在、聖キリル・メトディオス大学が開講している日本語の授業で、『初級日本語げんきⅠ』『げんきワークブックⅠ』、『にほんごこれだけ！1』や『Japanese for Young People I: Kana Workbook』等が使用されている。

#### 学校教育以外

詳細不明

### IT・視聴覚機材

2025年現在、聖キリル・メトディオス大学が開講している日本語の授業において、『つながるひろがるにほんごでのくらし』及び『にほんごたどく』が使用されている。

## 5.教師

### 資格要件

#### 初等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

#### 中等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

#### 高等教育

詳細不明

#### 学校教育以外

なし

### 日本語教師養成機関（プログラム）

なし

### 日本語のネイティブ教師（日本人教師）の雇用状況とその役割

2025年現在、日本語教師派遣団体である ICEA から派遣された日本人教師（ボランティア）が聖キリル・メトディオス大学言語学部における日本語の授業を担当している。

### 教師研修

教師研修は確認されていない。

## 6.教師会

### 日本語教育関係のネットワークの状況

日本語教育関係のネットワークは確認されていない。

### 最新動向

特になし

## 7.日本語教師派遣情報

### 国際交流基金からの派遣

### 国際協力機構（JICA）からの派遣

国際交流基金及び JICA からの派遣は行われていない。

### その他からの派遣

「日本語のネイティブ教師（日本人教師）の雇用状況とその役割」参照。

## 8.シラバス・ガイドライン

なし

## 9.評価・試験

共通の評価基準や試験はない。

## 10.日本語教育略史

**1997 年**

マケドニア・日本友好協力協会が日本語講座（一般向け）を開講（2001年に中止。2004年に再開され、2005年に終了。）

**2013 年**

聖キリル・メトディオス大学で、日本語が単位取得可能な科目となる。

## 情報更新についてのお願い

この国の日本語教育に関する情報がありましたらお知らせくださるようお願いいたします。  
なお、内容の確認のため、こちらからご連絡する場合があります。

**Eメール：kunibetsu@jpf.go.jp**

（メールを送る際は、**全角@マークを半角@マークに変更してください**）